



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月7日

上場会社名 日本信号株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6741 URL http://www.signal.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 英彦
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 広瀬 実 (TEL) 03-3217-7200
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月8日 配当支払開始予定日 平成29年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	30,974	5.7	△1,002	—	△580	—	△886	—
29年3月期第2四半期	29,308	△18.3	△586	—	△214	—	△524	—

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 △529百万円(—%) 29年3月期第2四半期 △841百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	△13.57	—
29年3月期第2四半期	△7.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	115,754	76,617	66.2
29年3月期	124,298	79,252	63.8

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 76,617百万円 29年3月期 79,252百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	7.00	—	16.00	23.00
30年3月期	—	7.00			
30年3月期(予想)			—	17.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	88,000	7.1	6,000	40.5	7,000	33.9	4,500	28.5	67.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期2Q	68,339,704株	29年3月期	68,339,704株
30年3月期2Q	3,051,151株	29年3月期	2,027,751株
30年3月期2Q	65,322,720株	29年3月期2Q	68,197,334株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期(2017年4月1日～2017年9月30日)におけるわが国の経済は、新興国経済の成長鈍化や近隣国との政治的緊張関係で不確実性が高まったものの、国内においては企業収益の改善により設備投資も堅調に推移し、雇用・所得環境の改善、個人消費の持ち直しが続いたことで緩やかに回復しております。

このような状況のもと当社グループは、長期経営計画に掲げる「グローバル社会に適応したサステナブル成長企業」となるべく、成長・投資戦略、人材戦略、ものづくり戦略に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績といたしましては、受注高は52,486百万円(前年同期比34.1%増)、売上高は30,974百万円(前年同期比5.7%増)となりました。損益面につきましては、580百万円の経常損失(前年同期は214百万円の経常損失)、886百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失(前年同期は524百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

事業の概況をセグメント別に申し上げますと、次のとおりであります。

[交通運輸インフラ事業]

「鉄道信号」では、国内市場においては、JR・私鉄各社向けに信号保安装置をはじめとした各種機器のほか、訪日外国人へのサービス向上に資する多言語に対応した自動旅客案内装置の販売に取り組みました。海外市場においては、新興国の旺盛な鉄道インフラ需要に「安全と信頼のテクノロジー」で応えるために営業活動を推進し、新たにアルゼンチン・ブエノスアイレス近郊線網向け自動列車停止装置を受注しました。

道路交通安全システムを中心とする「スマートロード」では、非常用電源装置や画像処理を活用した逆走防止対策設備システムの提案や、名古屋電気工業株式会社と協業した高速道路用誘導灯の設置など、新分野における営業展開を進めてまいりました。

結果といたしましては、受注高は30,597百万円(前年同期比76.3%増)となり、売上高につきましては14,862百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

また、損益面では348百万円のセグメント損失(前年同期は590百万円のセグメント利益)となりました。

[ICTソリューション事業]

駅務ネットワークシステムを中心とする「AFC」では、各社からのホームドアの受注があったほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ向け、大型タッチパネルで多言語対応の訪日外国人向け次世代券売機の拡販に努めました。

パーキングシステムソリューションを中心とする「スマートパーク」では、大型商業施設などに設置される大規模駐車場や盗難防止機能を強化した駐車場管理機器・システムの受注・売上拡大に継続して取り組みました。

結果といたしましては、受注高は21,889百万円(前年同期比0.4%増)となり、売上高につきましては16,111百万円(前年同期比15.2%増)となりました。

また、損益面では823百万円のセグメント利益(前年同期比100.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、たな卸資産の増加6,693百万円等がありましたものの、現金及び預金の減少3,184百万円、受取手形及び売掛金の減少14,012百万円等により8,544百万円減少し、115,754百万円となりました。

負債は、短期借入金の減少3,194百万円、支払手形及び買掛金の減少1,675百万円、未払法人税等の減少696百万円等により、前連結会計年度末に比べ5,909百万円減少の39,137百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加334百万円等がありましたものの、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純損失886百万円、配当金の支払1,060百万円等により、前連結会計年度末に比べ2,635百万円減少の76,617百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は9,359百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,178百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加や仕入債務の減少等がありましたものの、売上債権の減少等により、3,384百万円の資金の増加(前年同期は3,894百万円の資金の増加)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産、無形固定資産の取得により、1,224百万円の資金の減少(前年同期は360百万円の資金の減少)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済、自己株式の取得、配当金の支払等により、5,324百万円の資金の減少(前年同期は1,121百万円の資金の減少)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2017年5月9日に公表いたしました2018年3月期(2017年4月1日～2018年3月31日)の通期連結業績予想の修正はありません。

当社グループの主要事業のうち、「鉄道信号」、「スマートロード」および「AFC」につきましては、主要顧客である国内鉄道各事業者の設備投資や、警察等の公共投資が中心となっているため、当社グループの売上の比重は期末に高くなる傾向があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,591	9,407
受取手形及び売掛金	49,226	35,213
商品及び製品	3,061	4,280
仕掛品	7,676	12,398
原材料及び貯蔵品	2,671	3,424
繰延税金資産	2,604	2,676
その他	1,777	2,489
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	79,598	69,878
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,240	5,118
機械装置及び運搬具(純額)	1,411	1,350
工具、器具及び備品(純額)	1,308	1,459
土地	5,492	5,492
建設仮勘定	1,256	1,832
有形固定資産合計	14,708	15,253
無形固定資産	1,299	1,402
投資その他の資産		
投資有価証券	24,918	25,395
長期貸付金	5	5
退職給付に係る資産	1,919	1,965
繰延税金資産	302	282
その他	1,574	1,597
貸倒引当金	△28	△27
投資その他の資産合計	28,692	29,220
固定資産合計	44,699	45,875
資産合計	124,298	115,754

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,062	15,386
短期借入金	4,871	1,676
未払法人税等	1,317	620
賞与引当金	2,604	2,412
役員賞与引当金	64	31
受注損失引当金	400	496
その他	5,463	5,068
流動負債合計	31,783	25,692
固定負債		
長期預り金	97	97
長期末払金	39	38
繰延税金負債	4,356	4,478
役員退職慰労引当金	160	162
退職給付に係る負債	8,608	8,667
固定負債合計	13,262	13,444
負債合計	45,046	39,137
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	7,585	7,585
利益剰余金	50,407	48,460
自己株式	△2,025	△3,070
株主資本合計	65,967	62,975
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,179	13,513
退職給付に係る調整累計額	104	127
その他の包括利益累計額合計	13,284	13,641
純資産合計	79,252	76,617
負債純資産合計	124,298	115,754

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	29,308	30,974
売上原価	22,705	25,207
売上総利益	6,602	5,766
販売費及び一般管理費	7,189	6,769
営業損失(△)	△586	△1,002
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	196	204
生命保険配当金	187	173
不動産賃貸料	159	163
その他	16	22
営業外収益合計	561	566
営業外費用		
支払利息	6	9
為替差損	156	20
支払手数料	—	31
過年度消費税等	—	56
不動産賃貸費用	22	22
その他	3	4
営業外費用合計	189	144
経常損失(△)	△214	△580
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	68	—
特別利益合計	68	0
特別損失		
固定資産除売却損	65	0
投資有価証券評価損	0	0
ゴルフ会員権評価損	1	—
特別損失合計	66	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△213	△580
法人税等	310	306
四半期純損失(△)	△523	△886
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△524	△886
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	—

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△290	334
退職給付に係る調整額	△27	23
その他の包括利益合計	△317	357
四半期包括利益	△841	△529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△842	△529
非支配株主に係る四半期包括利益	1	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△213	△580
減価償却費	816	890
固定資産除売却損益(△は益)	65	△0
受取利息及び受取配当金	△197	△207
支払利息	6	9
売上債権の増減額(△は増加)	16,165	14,012
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,011	△6,693
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,109	△2,444
前受金の増減額(△は減少)	211	153
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	27	109
その他	△1,677	△805
小計	5,084	4,443
利息及び配当金の受取額	197	207
利息の支払額	△6	△9
法人税等の支払額	△1,381	△1,256
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,894	3,384
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の純増減額(△は増加)	1,600	—
投資有価証券の取得による支出	△698	△7
投資有価証券の売却及び償還による収入	289	—
定期預金の預入による支出	△36	△36
定期預金の払戻による収入	42	42
有形固定資産の取得による支出	△1,294	△960
無形固定資産の取得による支出	△209	△272
その他	△51	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△360	△1,224
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△3,200
関係会社以外からの預り金による純増減額(△は減少)	—	△20
配当金の支払額	△1,020	△1,059
非支配株主への配当金の支払額	△5	—
自己株式の増減額(△は増加)	—	△1,045
子会社の自己株式の取得による支出	△95	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,121	△5,324
現金及び現金同等物に係る換算差額	△69	△13
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,343	△3,178
現金及び現金同等物の期首残高	13,678	12,538
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,021	9,359

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年12月20日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果、自己株式は当第2四半期連結累計期間に1,045百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において3,070百万円となりました。

なお、当該決議に基づく自己株式の取得につきましては、平成29年5月24日をもって終了しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(原価差異の繰延処理)

季節的に変動する操業度により発生した原価差異は、原価計算期間末（年度末又は第2四半期連結会計期間末）までにはほぼ解消が見込まれるため、第1、3四半期連結会計期間末では、当該原価差異を流動資産（その他）又は流動負債（その他）として繰り延べております。

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注2)
	交通運輸 インフラ事業	I C T ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,328	13,979	29,308	—	29,308
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	15,328	13,979	29,308	—	29,308
セグメント利益	590	411	1,002	△1,589	△586

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,589百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注2)
	交通運輸 インフラ事業	ICT ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,862	16,111	30,974	—	30,974
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,862	16,111	30,974	—	30,974
セグメント利益又は損失 (△)	△348	823	475	△1,478	△1,002

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,478百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。